【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成23年8月25日(2011.8.25)

【公表番号】特表2010-531866(P2010-531866A)
【公表日】平成22年9月30日(2010.9.30)
【年通号数】公開・登録公報2010-039
【出願番号】特願2010-514119(P2010-514119)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　47/20　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 7/08　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/02　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/08　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　35/12　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/047　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/7004　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/198　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/205　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/51　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/28　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/10　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　47/20
Ａ６１Ｐ　 7/08
Ａ６１Ｐ　17/02
Ａ６１Ｋ　 9/08
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｋ　35/12
Ａ６１Ｋ　31/047
Ａ６１Ｋ　31/7004
Ａ６１Ｋ　31/198
Ａ６１Ｋ　31/205
Ａ６１Ｋ　31/51
Ａ６１Ｋ　37/26
Ａ６１Ｋ　47/10
Ａ６１Ｋ　31/14

【手続補正書】
【提出日】平成23年7月4日(2011.7.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
緩衝化された体液増量剤溶液であって、ＢＥＳ、ＴＥＳ、ＭＯＰＳ、およびこれらの組み合わせからなる群から選択された生理学的に許容可能な非リン酸緩衝剤と、５：１～１

：１のモル濃度比のカルシウムイオンおよびマグネシウムイオンと、を含んでなる、体液増量剤溶液。
【請求項２】
前記非リン酸緩衝剤は、ＢＥＳと、ＢＥＳとＭＯＰＳとの組み合わせと、ＢＥＳとＴＥＳとの組み合わせと、からなる群より選択される、請求項１に記載の体液増量剤溶液。
【請求項３】
前記非リン酸緩衝剤は、１～１２ｍｍｏｌ／Ｌの濃度で存在する、請求項１又は２に記載の体液増量剤溶液。
【請求項４】
クエン酸緩衝剤および乳酸緩衝剤を含まない、請求項１～３のいずれか一項に記載の体液増量剤溶液。
【請求項５】
カルシウムイオンおよびマグネシウムイオンのモル濃度比は４：１～２：１である、請求項１～４のいずれか１項に記載の体液増量剤溶液。
【請求項６】
０．１～２．５ｍｍｏｌ／Ｌのカルシウムイオン、または０．４～２５ｍｍｏｌ／Ｌのマグネシウムイオンのうち少なくともいずれか一方を含んでなる、請求項１～５のいずれか１項に記載の体液増量剤溶液。
【請求項７】
１．１～１．４ｍｍｏｌ／Ｌのカルシウムイオンと、０．２～０．６ｍｍｏｌ／Ｌのマグネシウムイオンと、を含んでなる、請求項６に記載の体液増量剤溶液。
【請求項８】
血清または血清抽出物を含まない、請求項１～７のいずれか１項に記載の体液増量剤溶液。
【請求項９】
２１～３５ｍｍｏｌ／Ｌの炭酸水素イオンを含んでなる、請求項１～８のいずれか１項に記載の体液増量剤溶液。
【請求項１０】
（ａ）１００～１５０ｍｍｏｌ／Ｌのナトリウムイオン、
（ｂ）２．５～６．２ｍｍｏｌ／Ｌのカリウムイオン、
（ｃ）９６～１２６ｍｍｏｌ／Ｌの塩化物イオン、
（ｄ）２～１１ｍｍｏｌ／Ｌのグルコース、
（ｅ）５０～１５０μｍｏｌ／Ｌのグリセロール、
（ｆ）７～１５μｍｏｌ／Ｌのコリン、
（ｇ）５～４００μｍｏｌ／Ｌのグルタミン酸、
（ｈ）５～２００μｍｏｌ／Ｌのアスパラギン酸、
（ｉ）１００～２０００μｍｏｌ／Ｌのグルタミン、
（ｊ）１５～２１５μｍｏｌ／Ｌのピログルタミン酸、
（ｋ）２０～２００μｍｏｌ／Ｌのアルギニン、
（ｌ）１～１２０ｎｍｏｌ／Ｌのチアミンピロリン酸、
（ｍ）４０～７０μｍｏｌ／ＬのＤ－もしくはＤＬもしくはＬ－カルニチン、および
（ｎ）５～２００ｍＩ．Ｕ．／Ｌのブタもしくはヒトのインスリン
のうちの１以上を含んでなる、請求項１～９のいずれか１項に記載の体液増量剤溶液。
【請求項１１】
抗生物質成分を含んでなる、請求項１～１０のいずれか１項に記載の体液増量剤溶液。
【請求項１２】
抗生物質成分は１０～１５０ｍｇ／Ｌのクロラムフェニコールである、請求項１１に記載の体液増量剤溶液。
【請求項１３】
４～３８℃の温度範囲においてｐＨが７．０５～７．５である、請求項１～１２のいず

れか１項に記載の体液増量剤溶液。
【請求項１４】
前記溶液は代用血液又は血管外液代用物である、請求項１～１３のいずれか１項に記載の体液増量剤溶液。
【請求項１５】
請求項１～１４のいずれか１項に記載の体液増量剤溶液の濃縮貯蔵溶液であって、該貯蔵溶液は１～５０倍に濃縮されている、濃縮貯蔵溶液。
【請求項１６】
炭酸水素イオンを含まない、請求項１５に記載の濃縮貯蔵溶液。
【請求項１７】
医薬として使用するための、血液量減少症の治療において使用するための、熱傷の治療において使用するための、血液量増量剤として使用するための、再灌流傷害の防止もしくは軽減のうち少なくともいずれか一方において使用するための、体液補給治療薬として使用するための、外科的処置を受けている対象者の腹腔の灌流において使用するための、治療薬、検査薬、もしくは相助作用剤のうち少なくともいずれかを対象者にｉｎ　ｖｉｖｏで送達するための血管内または血管外送達媒体として使用するための、又は、治療薬、検査薬、もしくは相助作用剤のうち少なくともいずれかを対象者のリンパ系に送達する際に使用するための、請求項１～１３のいずれか１項に記載の溶液。
【請求項１８】
血液量減少症の治療用の血液量増量剤を製造するための、又は、熱傷を負った対象者の治療用の医薬を製造するための、請求項１～１３のいずれか１項に記載の溶液の使用法。
【請求項１９】
（ａ）熱傷を負った対象者の細胞外液および間質液の損失の治療、
（ｂ）外科的処置を受けている対象者の腹部もしくは胸部の臓器もしくは組織のｉｎｓｉｔｕにおける洗浄、
（ｃ）急性腎不全もしくは急性毒性症状を有する対象者の腹膜透析中の腹腔の灌流、または
（ｄ）再灌流傷害の防止もしくは軽減のうち少なくともいずれか一方、
のための医薬を製造するための、請求項１～１６のいずれか１項に記載の溶液の使用法。